

# 題： ネット万能主義への疑問

名前：

近年、インターネットの普及はめざましいものがある。最近ではWEB2.0などという言葉が表すように、情報の発信者と受信者の間、双方向のやり取りが行われるに至った。SNS（ソーシャルネットワーク）やブログサービスの台頭はその最たるものである。WEB上で誰かが発信した意見に、さらに別の誰かによる意見が加えられる、不特定多数の意見が集約していく。決してマイノリティーの意見を消すことなく、意見が集約されていくのは、大衆型のデータを扱えるインターネットならではの特徴だ。新聞や雑誌では本来はどの容量をもったデータは扱えない。情報量としては圧倒的にインターネットに軍配が上がるのだ。

ここまではインターネットの利点、というものを考えてきたが、ここで視点を改めてみようと思う。雑誌、新聞の利点とは何か。それは、それらが扱う情報が「カテゴリー化」されていることによる、得たい情報のアクセスの容易さ

ではないだろうか。例えば、サッカーチームのFC東京の情報がほしいと思えば、それを専門的に扱う雑誌がある。また、情報の信用性というのもインターネットと大きな違いだ。その程度身元のわかる人が書いた意見、情報ならば、そこに信用性があるはずだが、ネット上で扱われている情報のほとんどは誰が書いたかわからない。言ってしまうと無責任な意見である。確かな情報を得ようと思ったとき、書籍を手にするのが一番なのだ。「急がば回れ」とは日本のことわざだが、まさに簡単に多くの情報を得られるインターネットは反面情報の不確定性を持ち合わせている。検索エンジンなどでいくつ情報も整理した所でもそれはめぐり回ることはいできない。

このような立場から、私はこれから新聞・雑誌が必要であるという意見に賛成する。